令和７年産　果樹情報（第６号）

令和７年９月１２日
宮城県大河原農業改良普及センター

高温が続いています、収穫遅れに注意しましょう！！
・日本なしやももは、収穫後の防除を必ず実施してください。
・シンクイムシ、ハダニ類、カメムシ類の発生に注意しましょう。

１　気象経過

８月の平均気温は 25.3℃で平年より 1.6℃高く推移しました。また、８月の降水量の合計は 116 ㎜で平年より 64 ㎜少なく推移しました。

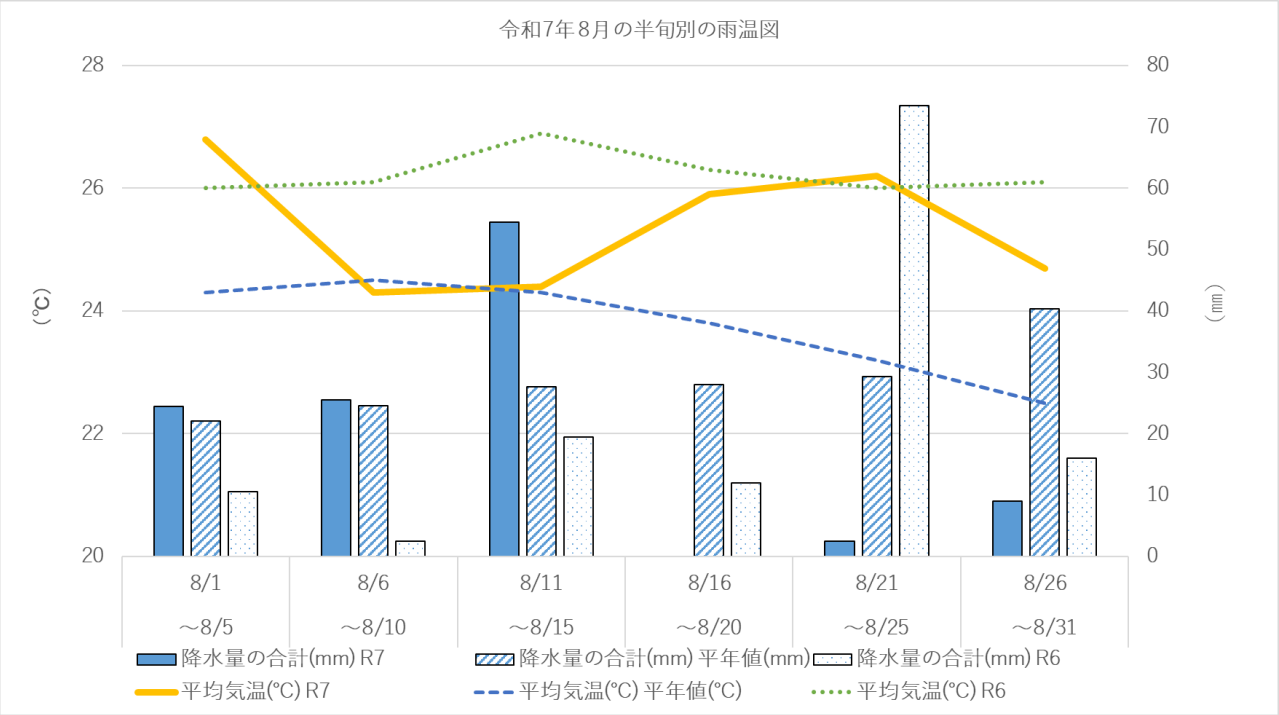

図１ アメダス蔵王地点の半旬別合計降水量及び気温の経過
（棒グラフ：平均降水量、折れ線グラフ：平均気温）

２　果樹作況調査ほの果実肥大状況

果樹作況調査ほにおけるりんご、なしの果実肥大状況は、表１のとおりです。

表１　りんご・なし（9/10 調査）の果実肥大状況（単位：mm）

樹　種	品種	調査地点	令和７年		令和６年		平年比（%）	
			タテ	ヨコ	タテ	ヨコ	タテ	ヨコ
りんご	ふ　じ	白石・郡山	70.2	79.1	73.5	81.6	96	101

３　宮城県内の果樹における病害虫の発生状況

宮城県病害虫防除所発行の「発生予報第８号（概要版）」によれば県内の病害虫の発生状況は以下のとおりです。（令和７年８月 26 日発行）

品目	病害虫名	発生予報	病害虫名	発生予報
りんご	褐斑病	発生量：やや多	ハダニ類	発生量：やや多い
	斑点落葉病	発生量：平年並み	果樹カメムシ類	発生量：多い

４　樹種ごとの管理

■りんご

管理作業のポイント

- 着色管理を目的とする葉摘みは２回程度に分けて実施します。
- 高温が続いているため、着色向上のための葉摘みや玉回しは、日焼け果の発生を助長する恐れがあります。気温の状況を確認して実施の有無を判断してください。
- 成熟期の高温は、着色不良や果肉軟化を招くため、果実の熟度や品質を確認しながら収穫が遅れないよう注意しましょう。

病害虫防除のポイント

- 晩生種で最終散布を早めに切り上げると、果実に斑点落葉病、褐斑病、すす点病、すす斑病等が発生したり、シンクイムシ類等の食害を受けたりする場合もあるので、生育状況と収穫時期に合わせた防除を実施しましょう。

■日本なし

管理作業のポイント

- 中晩生品種の収穫の際に、成熟期の高温は、果皮色に比べ果肉の熟度が進むため、過熟にならないよう注意してください。

病害虫防除のポイント

- 「幸水」のシンクイムシ類の果実被害が目立つ園地では、中・晩生品種を対象に防除を実施しましょう。
- 被害拡大を防ぐため、シンクイムシ類の被害果実は、水づけ等により適切に処分しましょう。
- **黒星病が多発した地域では、秋季防除と落葉処理を徹底しましょう。**
- 秋季防除は、りん片生組織が露出する時期から、落葉率 80％までの時期（11 月上旬頃が最終散布の目安）までに最低2回は実施してください。
- 全て落葉した後の散布は、効果がありません。
- 散布薬量は、10a 当たり 300 リットルを目安に、薬液が枝を流れるように散布しましょう。
- 被害落葉は、翌年の第一次伝染源となるので、園内の落葉は、土中に埋めるか焼却するなど、適切に処分しましょう。

■もも

病害虫防除のポイント

- せん孔細菌病の発生が多い園地では、薬剤散布を収穫後の９月上旬から２週間間隔で３回実施しましょう。